

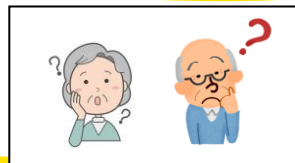
第231号

まちのくすりやさん

今回のおはなし



「認知症について」



「認知症」について

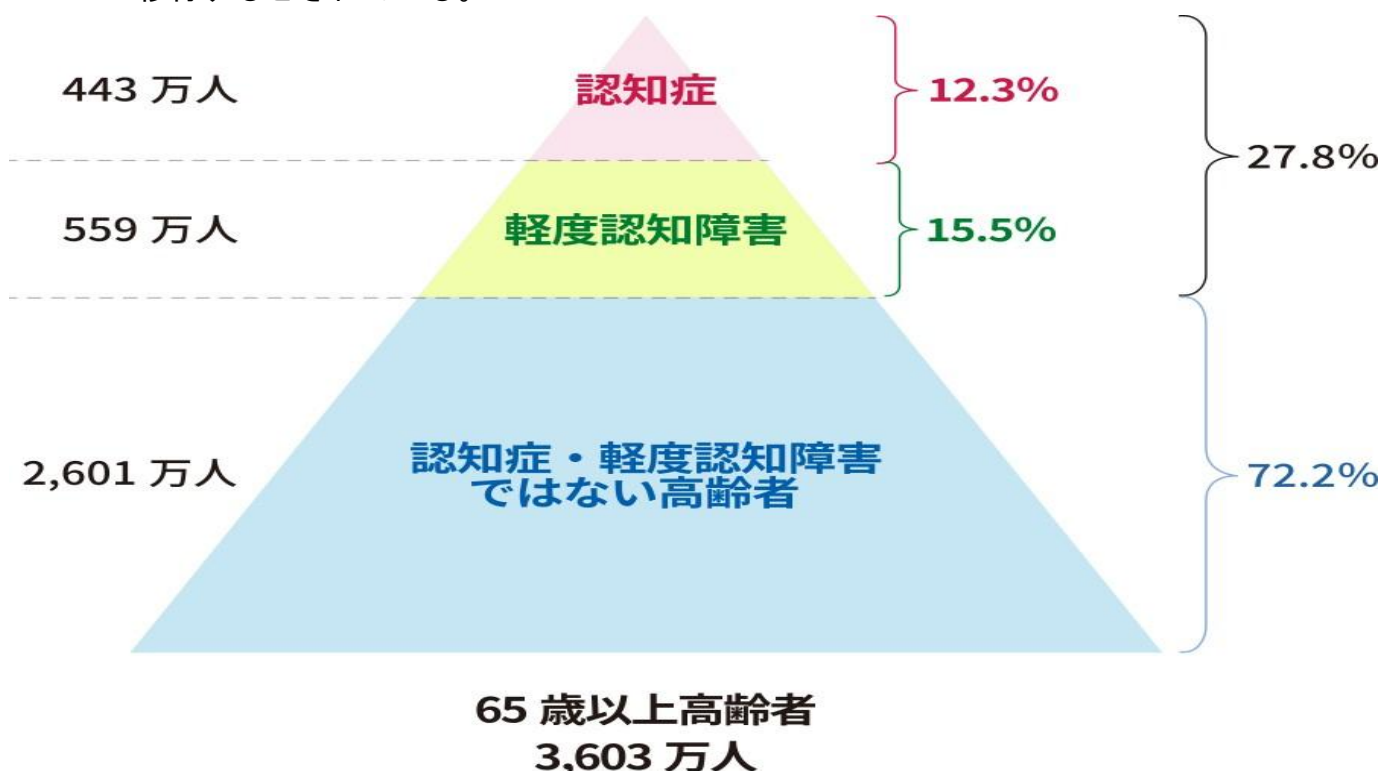
「認知症」とは、様々な病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に変化し、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、社会生活に支障を来した状態をいいます。

我が国では高齢化の進展とともに、認知症と診断される人も増加しています。65歳以上の高齢者を対象にした令和4年度（2022年度）の調査の推計では、認知症の人の割合は約12%、認知症の前段階と考えられている軽度認知障害（MCI※）の人の割合は約16%とされ、両方を合わせると、3人に1人が認知機能にかかわる症状があることになります（下図参照）。なお、軽度認知障害のかた全てが認知症になるわけではありません。

また、65歳未満で発症する認知症は、「若年性認知症」と呼ばれます。若年性認知症の発症年齢は平均54歳と若く、女性が多い高齢者の認知症と違い、男性が女性より少し多いという傾向があります。今日、認知症は、誰もがなり得ると考えられています。

※MCI=Mild Cognitive Impairment

記憶障害などの軽度の認知機能の障害が認められるが、日常生活にはあまり支障がないため、認知症とは診断されない状態。MCIの人のうち年間で10%から15%が認知症に移行するとされている。



加齢によるもの忘れ

- ・ 体験したことの一部を忘れる。
- ・ 例) 朝ごはんを食べたことは覚えているがメニューが思い出せない。
- ・ もの忘れの自覚がある。
- ・ 症状は極めて徐々にしか進行しない。

認知症によるもの忘れ

- ・ 体験したことの全てを忘れていく。
- ・ 例) 朝ごはんを食べたこと自体を忘れていく。
- ・ もの忘れの自覚がない（初期には自覚があることが少なくない）。
- ・ 症状は進行する。

※ここに挙げたものは一例です。

また、認知症とよく似た状態（うつ、せん妄）や、認知症の状態を引き起こす体の病気も様々あるため(甲状腺機能低下症など)、**早期に適切な診断を受けることが大切です。**

認知症かな？と思ったら

認知症の早期診断・早期治療につなげるために、自分自身のほか、家族・同僚・友人など周りの人について「もしかして認知症では」と思われる症状に気付いたら、一人で悩まず専門医や専門家などに相談しましょう。

厚生労働省より抜粋



近年は、アルツハイマー病の要因とされる脳内のアミロイドβを取り除いて、アルツハイマー病による軽度認知障害と軽度の認知症の進行を遅らせることが期待される抗アミロイドβ抗体薬による治療も行われています。

薬の使用に当たっては、投与が適切か様々な観点から検査・診断が必要になりますので、まずはかかりつけ医や専門外来を受診しましょう。早期発見が大切です！！

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実 1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku_ura_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>